

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2024年度 助成者)

作成日 2024年 8月 29日

氏名 (フリガナ)	小原 直人 (オハラ ナオト)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土)
大学名	大分大学
学年	5年

今回、医学部夏期集中医学英語研修に参加させていただき、1週間という短い期間でしたが、それ以上に得られるものが多かった機会だったと感じております。改めてこのような機会をいただいたことに感謝申し上げます。さて、私はこのプログラムに参加し、4点得られるものがあつたと思っております。

1点目は、現地の医師や JABSOM の学生と問診やプレゼンテーションをする機会が得られたことです。本プログラムに参加している日本人学生や JABSOM の学生に対して英語で問診を行い、先生に case presentation し、フィードバックをいただきました。英語力の低さを痛感するとともに臨床推論をもっと勉強する必要があると実感しました。一方で短い期間ではありましたが、毎日英語を聞くことで聞けるようになっていくという実感もあつたため、日本に帰ってから英語を継続して勉強するきっかけとなりました。

2点目は、ハワイで活躍されている先生のキャリアについてお話を聞いたことです。印象的だったのはクイーンズメディカルセンターで外傷の外科医として働かれている鶴田先生のお話でした。出身大学は佐賀大学で自分と同じ九州の大学出身ということで親近感がありましたが、その後亀田総合病院で研修されて、現在の病院で勤務されているとのことでした。自分の周りには海外で活躍したいという学生があまりおらず、佐賀大学でも似たような環境だったのではないかと想像すると、そのような環境からでもハワイで勤務することができるのだと実感を持ちました。将来、医師になった際に国際的に活躍したいと考えていたため、非常に感銘を受けました。

3点目は、JABSOM の学生のお話を聞いたことです。アメリカの医学生は、一回大学を卒業した後に大学院として医学部に進学するため、バックグラウンドが様々です。実際にお話しさせていただいた方の中にも、アメリカの有名な大学 MIT 出身の方がいらっしゃいました。医学部に進学するために他の大学を卒業したりボランティア活動をされたり、様々なバックグラウンドを持った志の高い方がいるということを知り、刺激をいただきました。

4点目は、海外留学などの海外志向を持った日本人学生と知り合えたことが貴重だったと考えています。前述のように、自大学において海外留学を本気で志している学生はほぼいなかったため、海外志向を持った学生が今どのような準備をしているのか知ることができました。

最後になりますが、本プログラムを企画・運営してくださった、日米医学医療交流財団の皆様、東海大学の皆様、ハワイ大学の皆様、レクチャーをしてくださった先生方、本プログラムの参加者の皆様、心より感謝申し上げます。